

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2009年3月)
～悪化が続く個人消費～

発表日 2009年4月28日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
T E L : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		コンビニ販売額	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	前年比	既存店 前年比
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.7	1.3	0.5	▲ 0.9	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1	0.1	▲ 1.6
	2月	5.6	▲ 0.2	6.3	▲ 0.3	3.2	▲ 0.3	2.6	1.2	0.9	1.4	3.4	0.8	3.4	0.8	0.8
	3月	1.5	▲ 1.1	1.7	▲ 1.7	1.0	0.1	1.7	0.2	▲ 1.2	1.3	1.2	▲ 0.6	1.2	▲ 0.6	▲ 0.6
	4月	4.3	3.0	5.6	4.2	0.1	0.0	▲ 0.7	▲ 2.2	▲ 3.4	▲ 1.4	1.4	▲ 0.2	1.4	▲ 0.2	▲ 0.2
	5月	3.8	1.7	4.8	2.2	0.3	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 2.5	▲ 1.7	5.1	3.5	5.1	3.5	3.5
	6月	4.0	▲ 0.4	5.0	▲ 0.5	0.3	0.1	▲ 2.7	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 1.7	5.7	4.0	5.7	4.0	4.0
	7月	9.0	3.3	11.0	3.9	2.0	0.2	0.2	▲ 0.7	▲ 2.3	0.5	13.3	11.5	13.3	11.5	11.5
	8月	2.9	▲ 3.3	3.5	▲ 4.1	0.7	0.2	▲ 1.0	▲ 2.2	▲ 2.9	▲ 1.8	6.7	5.1	6.7	5.1	5.1
	9月	3.3	▲ 2.8	4.2	▲ 3.5	▲ 0.3	0.0	▲ 2.1	▲ 3.3	▲ 4.6	▲ 2.6	7.5	6.4	7.5	6.4	6.4
	10月	▲ 1.1	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 2.9	▲ 4.3	▲ 6.9	▲ 2.6	9.8	7.9	9.8	7.9	7.9
	11月	▲ 8.6	▲ 4.8	▲ 10.7	▲ 6.3	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 3.1	▲ 6.3	▲ 0.7	9.1	7.2	9.1	7.2	7.2
	12月	▲ 11.2	▲ 6.7	▲ 13.8	▲ 8.5	▲ 2.7	▲ 1.7	▲ 4.8	▲ 6.2	▲ 9.6	▲ 3.6	7.8	5.8	7.8	5.8	5.8
09	1月	▲ 15.5	▲ 2.5	▲ 19.5	▲ 3.6	▲ 2.4	▲ 0.1	▲ 3.8	▲ 5.5	▲ 9.2	▲ 3.1	8.8	6.8	8.8	6.8	6.8
	2月	▲ 21.5	▲ 4.6	▲ 25.7	▲ 5.4	▲ 5.7	▲ 0.2	▲ 6.5	▲ 8.1	▲ 11.4	▲ 6.1	4.0	2.0	4.0	2.0	2.0
	3月	▲ 24.0	▲ 8.5	▲ 29.2	▲ 10.6	▲ 3.9	▲ 1.1	▲ 6.7	▲ 8.1	▲ 12.9	▲ 4.9	6.1	3.9	6.1	3.9	3.9

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ 悪化が続く個人消費

3月の小売業販売額は前年比▲3.9%と7ヵ月連続でマイナスとなった。2月の同▲5.7%と比べれば減少幅が縮小しているが、これは2月の数字が昨年のうるう年の反動で見かけ上押し下げられているためである。この要因を考慮すると、3月の小売業販売額は2月から悪化したと考えられる。季節調整値でみても前月比▲1.1%と比較的大きな減少となっている。事前の市場予想（前年比▲4.9%、当社予想：▲3.0%）こそ上回ったが、実際には弱めの結果といっていよう。

業種別では、各種商品小売業や織物・衣服・身の回り品の落ち込みが目立った。日本百貨店協会によると、月前半の高温が一転して後半は顕著な低温となる寒暖差の激しい天候が影響し、最盛期の春物衣料が低調に推移したとのことである。そのほか、これまで比較的堅調に推移していた食料品が、ここに来て売上を落としていることが目に付く。

物価上昇の影響を考慮するため、小売業販売額を消費者物価指数で実質化¹すると前月比▲0.4%となる。2月の同▲1.0%に続いての悪化である。これまで実質小売業販売額は、実質家計調査や出荷統計といった他の消費関連指標と比べて底堅く推移してきたのだが、ここに来て軟化の兆しが窺える。

○ 1-3月期の実質個人消費は大幅マイナスに

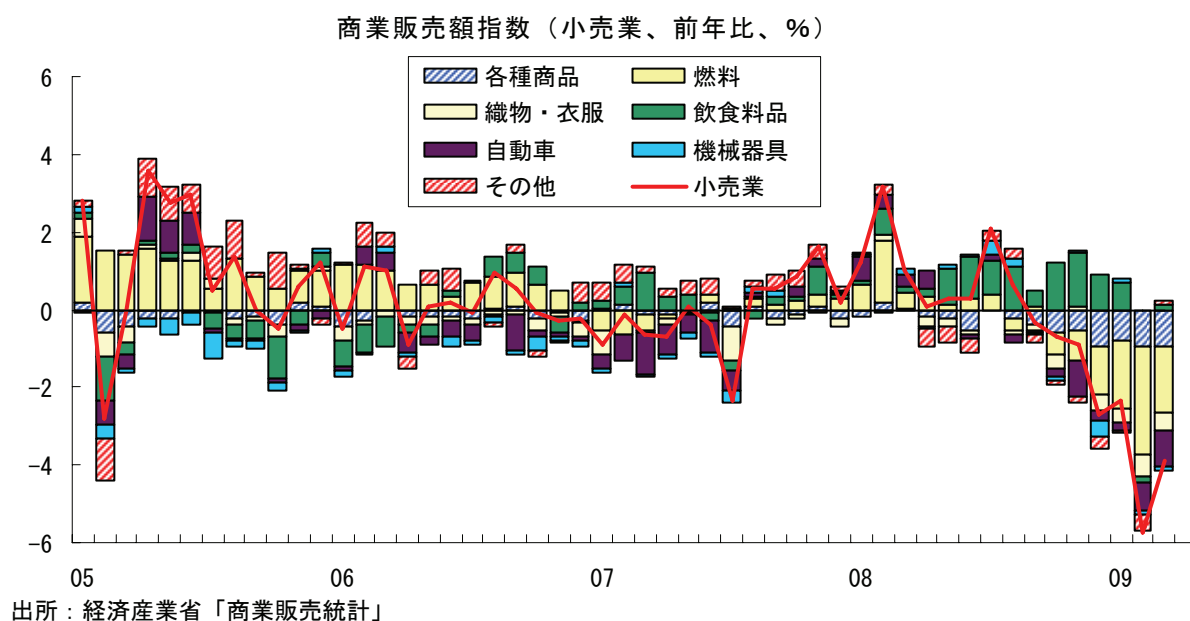
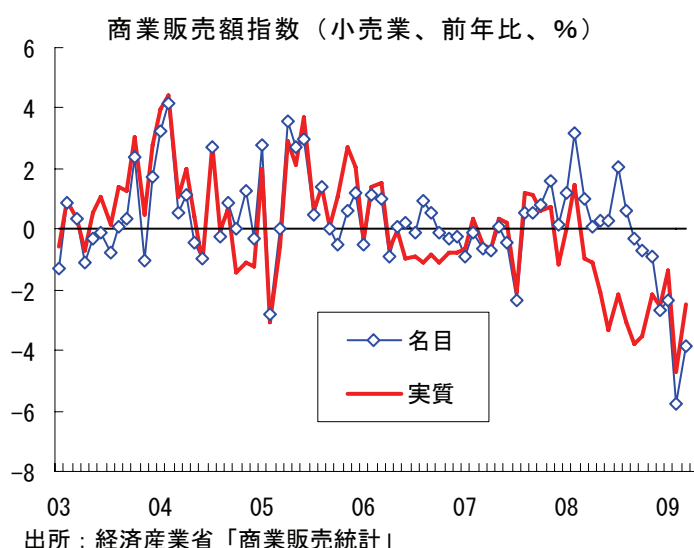
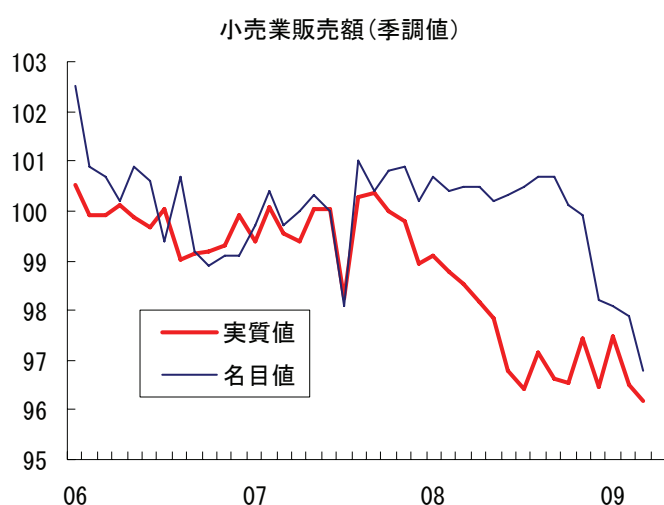
GDPベースの実質個人消費は08年10-12月期に前期比▲0.4%と減少したが、09年1-3月期には減少幅がさらに拡大する見込みである。物価の伸びが鈍化し、実質購買力の縮小圧力が和らいでいるという好材料はあるのだが、雇用・所得環境の悪化の影響の方が大きかったようだ。個人消費減少の他にも、輸出の激

¹ 消費者物価の財（除く電・ガス・水道）で実質化。3月の値は未公表のため、東京都区部の値から推定した。季節調整は当社。

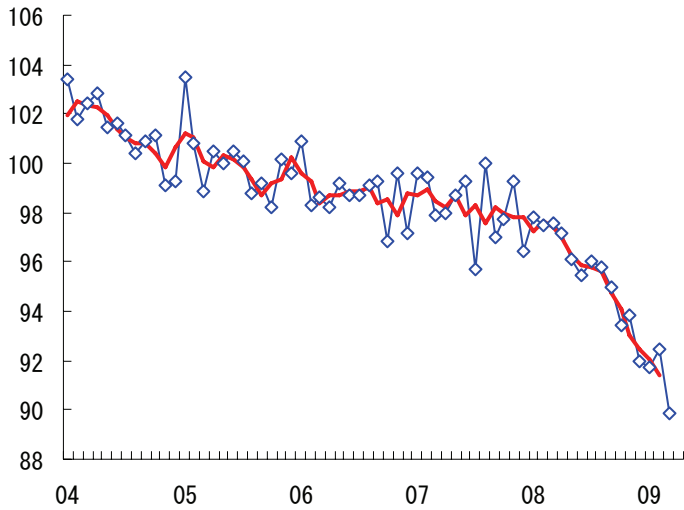
減継続や設備投資の落ち込みなども加わる結果、1-3月期の実質GDPは10-12月期（前期比年率▲12.1%）から悪化ペースが加速する可能性がある。

先行きについても状況は厳しい。年明け以降、消費者マインドに安定化の動きがみられていることが注目されるが、この先、雇用調整や賃金削減が本格化してくることを踏まえると楽観は禁物である。再びマインドが低下に転じる可能性も大いにあるだろう。定額給付金支給や、自動車・家電の買い替え促進策の効果が出る4-6月期については、個人消費が一時的に上向き、前期比でプラスに転じると予想されるが、その効果が剥落に向かう7-9月期以降には再び減少に舞い戻る可能性が高いと考えている。

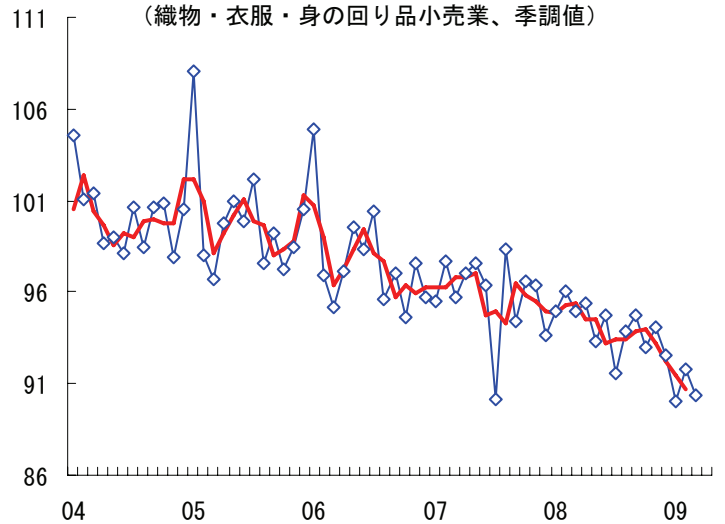
景気全体を見渡すと、在庫調整の進捗や輸出の下げ止まりといった好材料がこのところ散見されるようになってきている。これに、先日発表された大型景気対策の効果が加わることから、景気は先行き、持ち直しに転じる可能性が高いと筆者は考えている。もっとも、個人消費や設備投資といった内需が下押し要因になることから、景気の回復力は弱いものにとどまるだろう。



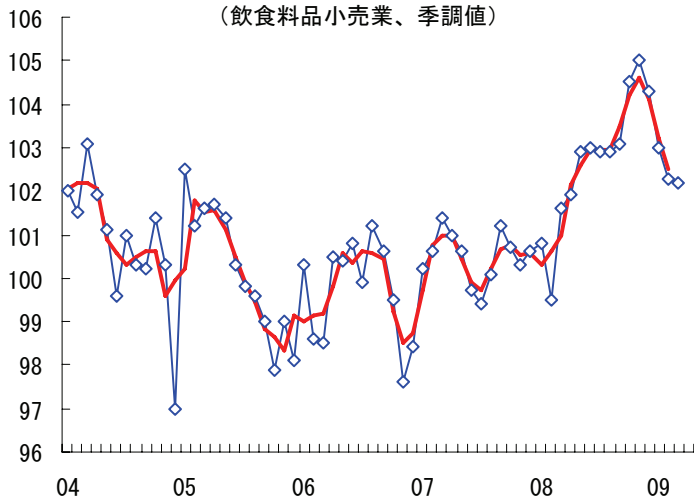
商業販売額指数（各種商品小売業、季調値）



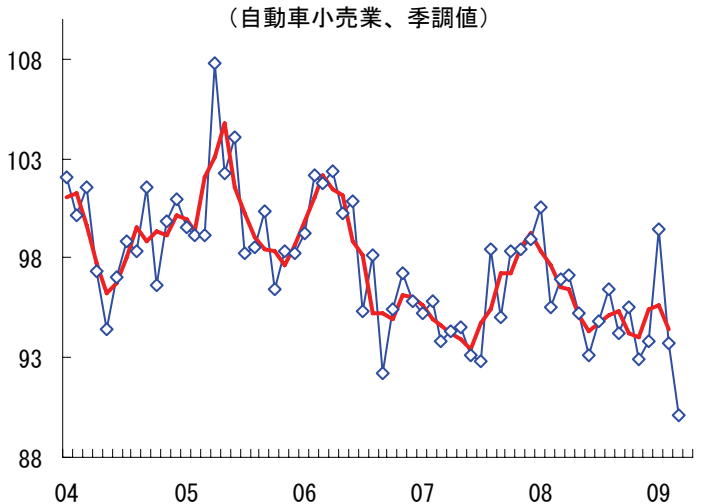
商業販売額指数
（織物・衣服・身の回り品小売業、季調値）



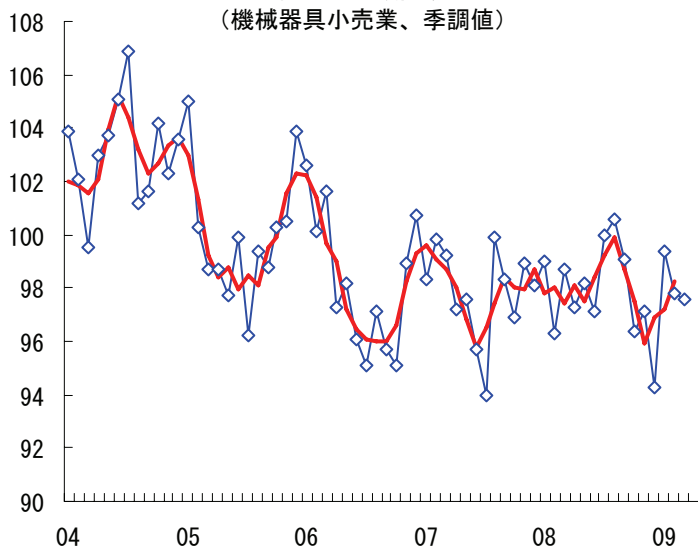
商業販売額指数
（飲食料品小売業、季調値）



商業販売額指数
（自動車小売業、季調値）



商業販売額指数
（機械器具小売業、季調値）



商業販売額指数
（その他小売業、季調値）

